

1. 10周年に寄せて

「町田日本語の会」10周年、誠におめでとうございます。

顧みれば、1993年の春に、町田市在住の塩田洋氏の呼びかけによって集まった人達で作ったグループ「木曜会」、「土曜会」が約半年間の「日本語の教え方の基礎」の勉強会を終えたときに、すでに日本語ボランティアとして活動していたグループ「ひまわり」と合体して「町田日本語の会」を発足させることになり、会の目的を『外国人が、地域での生活や滞在を少しでも快適にするためには日本人との、より豊かなコミュニケーションが不可欠である。市民レベルでの国際間理解を深めるため、その基礎となる日本語の講座を町田市及びその周辺に生活する外国人向けに開催する。』としました。これは1993年10月のことでした。

初めのころは、安定した活動場所を確保することに苦労しました。公共の施設を利用できればよいのですが色々な条件があつて、毎週同じ場所を教室として利用することは困難でした。それでときには銀行の会議室、小学校の空き教室などを利用させていただいたこともありました。その後、ボランティアセンターの支援により、ほぼ安定した活動場所を確保できるようになりました。

その頃から徐々に、口コミ、市役所の紹介、あるいは学習者募集のチラシを見て学習者が増えたので、我々と一緒に活動してくれる日本語ボランティアを養成するための講習会を行うことを計画しましたが、講師をお招きするだけの資金がなく困っていました。ある会議で財団法人アジア福祉教育財団・難民事業本部の方にお会いしたときにそのことをお話したところ、AJALT（社団法人国際日本語普及協会）に所属する日本語のベテラン教師を派遣するよう手配してくださいましたので約3か月間の講習会を開くことができ、講習会受講者の多くが会員になってくれました。

その後、専門の先生を招いて、日本語支援の技術向上を目的にした勉強会を月一回のペースでしばらくの間行って、会員のレベルアップを図りました。一部の会員は専門の機関でさらに勉強して日本語教師の資格を取るまでになりました。また最近では専門の学校等で勉強して日本語教師の資格を取っている方が、ボランティアとして入会してくださるようになり心強い限りです。私は「町田日本語の会」の設立時に入会し、楽しく活動させていただきましたが、約半年前に体調を崩し、活動をやめざるを得なくなりました。

最後になりましたが町田日本語の会の一層の発展と皆様のご健康を祈念いたします。

（前会長 岸 照男）

活 動 年 表

年 月	記 事
1992年 9月 (平成4)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報「まちだ」で「外国人に日本語を教えませんか」の呼びかけが塩田洋氏によりなされる。この呼びかけに約100人の有志が参加。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 34名が会員登録する。グループ名「ひまわり」として活動開始。テキスト「新日本語の基礎」の自主勉強会をスタートさせる。(健康福祉会館)。
1993年 4月 (平成5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年に引き続き塩田洋氏の再度の呼びかけに参加した有志がグループ名「木曜会」、「土曜会」として日本語教師養成講座の勉強会をスタートさせる。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者用パンフレットを作成、広報活動を開始する「ひまわり」。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者7名のインタビューの実施と授業を開始する「ひまわり」。
	<p style="margin-left: 2em;">ボランティア18名。 学習者 : 7名(豪2、中国2、加、米、泰 各1) 学習日 : 月、水、水(夜)、木、土 教室 : 消費者センター、公民館、健康福祉会館、 せりがや会館、玉川学園文化センター、 鶴川いちょう会館、南町田小学校</p>
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ひまわり」に「木曜会」と「土曜会」が合流、「町田日本語の会」が発足。44名が会員登録する。 ・ 「会則」「新規会員へのお願い」及び「係の活動内容」を制定。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町田市市長と面談、活動内容の説明と教室の場所提供を要望。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 懇親会開催(クリスマス会、消費者センター)。
1994年 3月 (平成6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラジル サッカー チームの選手及び関係者を対象に臨時クラスを開講(木曜日夜間)。
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町田市ボランティアセンターに団体登録。 ・ ボランティア保険に加入。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強会開催(「新日本語の基礎Ⅱ」'95.3月まで全11回)。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ タウン情報紙「ショッパー」の取材を受ける。6月23日号に“生きた日本語を学んでほしい”の見出しで活動紹介される。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町田市国際交流補助金5万円を受領。 ・ 東京ボランティアネットワークに入会。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「町田ボランティアサロン」を教室として使用開始。 ・ 出版社「アルク」の取材を受ける。「月刊日本語」12月号に“主婦が主体の日本語教室”の見出しで掲載される。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ (株)ヤック企画(多国籍コミュニケーションマガジン)の取材を受ける。
1995年 3月 (平成7)	<ul style="list-style-type: none"> ・ タウン情報紙「ショッパー」に学習者の募集案内を掲載。
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強会開催(「新日本語の基礎Ⅱ」'96.2月まで全9回)。

年 月	記 事
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア福祉教育財団難民事業本部の支援を得て日本語ボランティア教師入門講座を開催（「新日本語の基礎Ⅰ」、12月まで全12回参加者15名）。 ・町田ボランティアセンター祭りに参加。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・広報「まちだ」に中橋洋司氏が“日本語で国際交流”と題して投稿、“ひろば”に掲載される。
1996年 4月 (平成8) 8月	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会開催（「新日本語の基礎Ⅱ」‘97.2月まで全9回）。 ・東京日本語ボランティアネットワークの広報「Nihongo Network News」に会員団体のプロフィールとして紹介される。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・町田ボランティアセンター祭りに参加。
1997年 4月 (平成9) 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会開催（「新日本語の基礎Ⅰ」‘98.2月まで全9回）。 ・町田ボランティアセンター祭りに参加、広報ボードを展示。
1998年 4月 (平成10) 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・各種テキスト、教具、参考図書等を購入、教材の整備充実を図る。 ・勉強会開催（「新日本語の基礎Ⅰ」‘99年2月まで全9回）。 ・インターネット ホームページを作成。 ・町田ボランティアセンター祭りに参加。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・町田国際協会と国際交流諸団体との会合に出席（12団体が出席）。
1999年 6月 (平成11) 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習生(2名)を初めて受入れる。 ・町田わいわい祭りに参加、PRコーナーに広報ポスターを展示。
2000年 1月 (平成12)	<ul style="list-style-type: none"> ・町田市民フォーラムの完成に伴い同所の学習室及び町田市ボランティアセンター講習室を教室として使用開始。
2001年 4月 (平成13) 5月	<ul style="list-style-type: none"> ・町田国際協会の講習室を教室として使用開始。 ・「2001年ボランティア国際年 In 町田」に参加、広報ポスターを展示。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・懇親会開催（葉師池ピクニック）。 ・町田国際協会 及び まちだ地域国際交流協会(MIFA)との協力関係を推進するための3者会合がスタート。
2002年 4月 (平成14) 6月	<ul style="list-style-type: none"> ・「会則」「規則」及び「協議決定事項」を整理改編、「会則」「会員規定」「系の活動内容」及び「学習者規定」の4編に改定。 ・情報交換会開催（テキスト以外の教材活用）。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換会開催（ゲームの活用）。
2003年 2月 (平成15) 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換会開催（中級テキストの検討）。 ・懇親会開催（楽しい料理教室（餃子パーティ）、中央公民館）。 ・ボランティア等社会福祉協力団体として町田ボランティア連絡協議会から推薦され、第52回東京都社会福祉大会で表彰される。

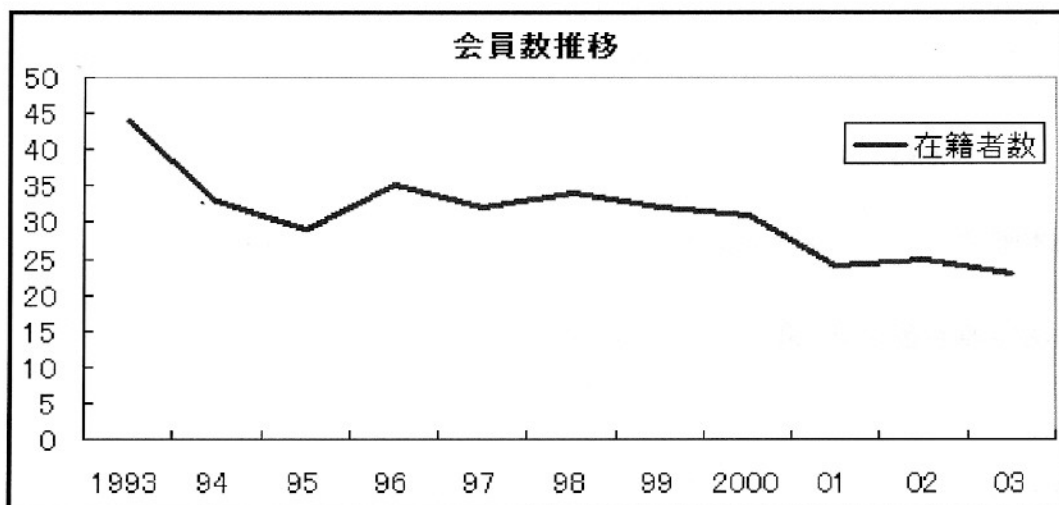
4. 会員と学習者の推移

会員数推移

2003年7月

年	1993	94	95	96	97	98	99	2000	01	02	03
入会者	44	6	0	11	2	3	3	2	3	4	1
退会者	0	17	4	5	5	1	5	3	10	3	3
在籍者数	44	33	29	35	32	34	32	31	24	25	23

*在籍者数：当年4月時点。 入・退会者数：前年4月～当年3月。



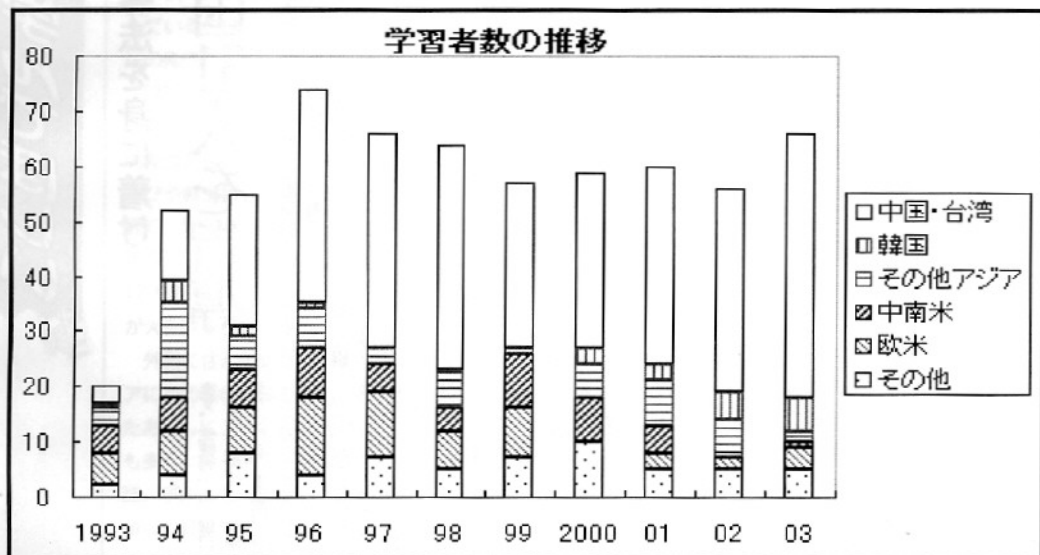
1. 94年退会者は当初の入会者のうち主として幅広い国際交流ボランティア活動を目指した人達。
2. 96年入会者は「日本語ボランティア教師入門講座」開催の結果によるもの。
3. 01年退会者は主として休会者の退会意思確認によるもの。
4. ここ数年、男性会員が増加している。
5. 95年以降の入会者は29名（年当たり3～4名）、退会者は39名（年当たり4～5名）となっている。

学習者数推移

2003年7月

年	1993	94	95	96	97	98	99	2000	01	02	03
中国・台湾	3	13	24	39	39	41	30	32	36	37	48
韓国	1	4	2	1				3	3	5	6
その他アジア	3	17	6	7	3	7	1	6	8	7	2
アジア計	7	34	32	47	42	48	31	41	47	49	56
中南米	5	6	7	9	5	4	10	8	5		1
欧米	6	8	8	14	12	7	9		3	2	4
その他	2	4	8	4	7	5	7	10	5	5	5
合計(延べ)	20	52	55	74	66	64	57	59	60	56	66

*学習者数は、クラス別学習者数を合計した延べ数。



1. 全体としてアジア、特に中国からの学習者の比率が高い。
2. 学習者の多くは、来日後就業までの比較的短期間の在籍である。
3. ここ数年、国際結婚の増加により、日本に永住する外国人が参加するようになった。
4. 当初は入門クラスが中心だったが、最近では来日前に既に自国で基礎レベルを終了している学習者が増えている。

表彰状

町田日本語の会 様

あなたは社会福祉事業に
深い理解を示され福祉の
進展に大きく寄与されました
そのご功績をたたえ第52回
東京都社会福祉大会に
おいて表彰いたします。

平成15年12月24日

社会福祉法人東京都社会福祉協議会

会長 堀田



8. おわりに

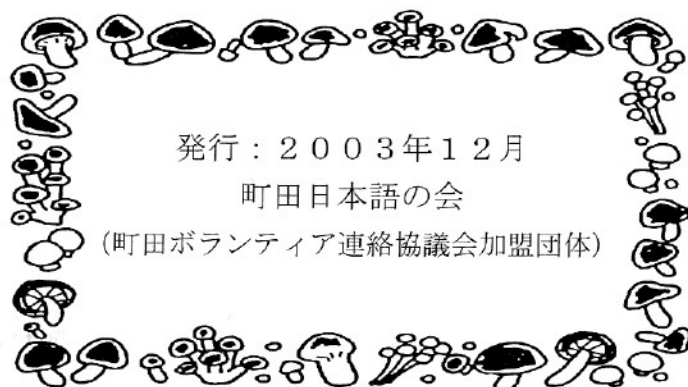
すでに出来上がったレールの上を走るのは、電車であれ、なんであれ容易です。しかし、何もないところにレールを敷くのは容易なことではありません。「創立期の思い出」を読ませて頂き、まさにその感がしました。「町田日本語の会」を発足させ、さらに軌道にのせることが如何に大変だったか、たずさわって来られた先輩の皆様方に、改めて敬意と感謝の念を表します。

ボランティア活動は、もともと会員一人一人の自由意志 (own free will) に基づくものであり、その組織運営は行政や企業とは異なります。「町田日本語の会」が幾多の困難を克服し、10年にわたり会としての活動を続けられたのは、少しでも地域の国際交流に役立とうとする会員一人一人の温かい心と素直な気持ちと、そして全員で仕事を分かち合う組織運営 (ルール) の賜物だと思います。

21世紀を迎え、ますます人類社会のグローバル化は進み、国や人種・民族の枠を越えて、人と人の交流が不可欠の時代になってきました。微力ではありますが、会則にある「市民レベルの国際間理解を深めるために」、そして「外国人とのより豊かなコミュニケーションを目指し」、更なる10年に向かって会員一同頑張っていこうではありませんか。

最後に、私達の活動を支えて下さった、町田ボランティア・センター、町田国際協会をはじめ関係各位、行政当局の皆様方に心より厚く御礼申し上げます。

(会長 遠藤竹二)



発行：2003年12月

町田日本語の会

(町田ボランティア連絡協議会加盟団体)